

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	37	学校名	加茂農林高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	校訓「至誠勤労・質実剛健」の下、「いのちを育み そして いのちから学ぶ」をスローガンに、夢の実現を目指す生徒一人ひとりの良いところを見つけ、励まし支える教育を推進し、広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育成する。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやりと協働の精神を培い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・ 確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自ら学び、自ら考え行動し、主体的かつ協働的に課題を解決していける生徒 ・ 産業人として必要な豊かな人間性を育み、地域社会や産業界に貢献できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践的・体験的な学習活動を通して学び、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての資質・能力を育成 ・ 主体的・対話的で深い学びを実践するプロジェクト学習により、科学的な思考力・判断力・表現力を養い、課題解決能力と実践力を育成 ・ 生徒一人ひとりの個性や長所を十分に伸ばす、個に応じた細かな指導の実施
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物や動物を育てること、食や環境など本校の学習内容に興味・関心がある生徒 ・ 実験・実習などの実践的・体験的な学習に、意欲的に取り組める生徒 ・ 将来、食料供給・環境創造などの各分野について大学等で学習を深めたり、農業や関連産業で地域貢献しようとする生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4次岐阜県教育振興基本計画を進めるにあたり、本校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像を学校内外に対して分かりやすく示すことが求められている。 ・ 地域で活躍する産業人の育成の目標のもと、「ふるさと教育」の充実、地域との連携が求められている。 ・ 教員の働き方「時間外勤務時間月45時間、年360時間」が注目されているなか、多忙化の解消に向けて業務の精選が求められている。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	・ 「加茂農林で学べてよかった」と思わせる教科・生徒・進路の各指導を展開。
	学習指導	・ ICTの活用と生徒の能力に応じた指導の充実のため公開・研究授業の実施と職員研修による授業の改善活動。
	進路指導	・ 「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。
	生徒指導	・ 「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考えて行動し、自らの夢に挑戦できる姿」の具現に向け、継続的な生徒指導を図る。

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画で の位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標
学校経営	①各方面の意見を集約しスクールミッションを策定する。	20	施策Ⅳ-20
	②担い手の育成を目標とした地域連携の推進。	4	施策Ⅰ-4
	③時間外勤務の軽減と業務の精選。	27	施策Ⅳ-27
学習指導	①授業参観の実施と事後研修の実施	8	施策Ⅱ-8
	②HPの適宜更新と「すぐる」の運用と研修	7	施策Ⅰ-7
	③生徒に還元できる適切な評価の研究と検討	26	施策Ⅳ-26
進路指導	①田頃からの挨拶や言葉遣い、他者と交流を意識させ、人間関係の構築の重要性を意識させる。	1	施策Ⅰ-1
	②1年：自己理解を深めさせ、自分に合った進路目標を描かせる機会を設定する。	13	施策Ⅱ-13
	③2年：働く意義や職業についての理解を深めさせ、具体的な進路目標を持たせる。	13	施策Ⅱ-13
	④3年：個々に応じた進路指導を充実させ、希望する進路の実現ができるようにする。特に、国立大受験者に対する指導体制づくりと早期指導。	13	施策Ⅱ-13
生徒指導	①いじめ・人権に反する行動を見逃さない。規範意識の向上と問題行動の未然防止に取り組む。	2	施策Ⅰ-2
	②挨拶を中心とした生徒の自主的な活動。	1	施策Ⅰ-1
	③交通ルールの遵守を徹底させ、自転車等の安全運転を身につけさせる。	19	施策Ⅲ-19
	④教育相談を機能させ、生徒個人及び集団のよりよい学校生活を実現させる。(SC, S相の活用)	19	施策Ⅲ-19

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
<p>・本校の教育内容にあったスクールミッションが策定できたか。</p> <p>・地域との連携事業を実施できたか。</p> <p>・勤務の割振、8の日、早帰りの日を意識した時間外勤務の軽減と正確・正直な動次郎の打刻</p>	B	<p>・各方面の意見を取り入れ、本校の教育目標にあったスクールミッションを策定することができた。</p> <p>・地域担い手総合戦略事業や課題研究、市政70周年事業など、地域と協働しすすめる事業を展開し、地域から学び、地域に貢献することができた。</p> <p>・業務アシスタント、農場支援員、特別支援教育支援員の導入により確実に業務軽減と効率化が進んでいる。さらに業務の合理的分担が必要である。</p> <p>・教職員の疲労度蓄積度が昨年度よりもアンケート結果が悪くなっているため、一人一人の意識改革や働き方の見直しが必要である。</p>	
<p>・5月と10月に公開授業週間を実施した。9月に授業アンケートを実施した。</p> <p>・「すぐる」を活用し、各種文書を直接案内することができた。</p> <p>・教科・学科で検討した意見を踏まえ、教務部で変更案を検討し提案。内規検討委員会で改正。</p>	B	<p>・ICTの活用に関しては多くの授業で当然のものとなってきた。今後はICTを活用し、生徒の主体的な学びを促進させる授業研究を進められるように、相互の授業参観と授業研究を活性化させたい。</p> <p>・速やかな情報提供に関しては「すぐる」での保護者向けの文書や生徒向けの催し物の案内などを行うことができた。しかし生徒のアンケート結果は-25%と大きく評価が下がってしまった。</p> <p>・評価の在り方に関しては、3年間の実施状況からより公平感と納得感のある評価方法に変更することができた。来年度から実施して、新たな課題等がないか引き続き検証していきたい。</p>	
<p>・基礎学力を身に付けさせる取り組み、進路希望に応じた個別の学習指導が行われた。</p> <p>・個々に応じた進路指導がなされ、適切なアドバイスを行うことができた。</p> <p>・日頃からの挨拶指導、個別の面接指導を行った。</p>	B	<p>・国立大に4名合格。(進路希望調査内容の把握、個別指導、模試受験などにより自分の学力にあった大学を選択させ、2年3学期より小論文・口頭試問、面接などの個別指導を行った。)</p> <p>・公務員に4名合格。(模試受験、専門知識・面接などの個別指導を行った。)</p> <p>・求人票管理の作業軽減のため、次年度に向けて「Handy進路指導室」の導入準備を行うことができた。</p>	B
<p>・いじめ認定(6件、特別指導1件)、問題行動2件(万引き、カンニング)という結果となった。</p> <p>・MSL挨拶活動を毎週木曜日実施した。</p> <p>・交通事故(対物4件、自損1件)が発生した。事故を防ぐため、交通安全講話を実施した。</p> <p>・欠席30日以上:13人(転退学6人)と長欠傾向がみられる生徒が一定数存在している。教育相談において個別相談やカウンセリングを設定し、生徒理解を図った。</p>	B	<p>・欠席者総数、遅刻者総数が昨年度より増加した。欠席30日以上の子供も増えてきている。</p> <p>・地域で活躍できる社会人を目指すためにも、自らを律し勉学に励む生徒の姿を取り戻していきたい。</p> <p>・ヘルメットの着用については、少しずつ増えては来ているが、効果的な指導ができているとは言いがたい。</p>	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月19日

<ul style="list-style-type: none"> ・県が進める働き方改革、時間外勤務時間の削減に向けた取り組みを推進する。 ・本校の社会的役割、目指すべき学校像を学校内外に対して分かりやすく示すよう、地域との連携活動を強化していく。 ・授業改善については熱心に授業研究をしている先生の授業の工夫などを多くの先生に知ってもらえるような機会を設定したい。 ・情報提供については「すぐる」のさらなる活用の促進と、HPの刷新に着手し、必要な情報をすぐに提供できるようにしたい。 ・評価に関してはe-教務へのすみやかな入力ができるよう観点別評価入力ファイル(かんでんさん)の新たなバージョンの開発をすすめていきたい。 ・国立大学、県立衛生・看護専門学校、公務員などの受験者に対する指導方法の確立と体制づくりを行う。 ・新規企業を開拓するとともに、求人票の管理に「Handy進路指導室」を導入し、生徒保護者が求人情報を確認しやすくする。 ・ヘルメットの着用については、効果的な指導方法を模索し、着用率を上げる取り組みを考えていきたい。

学校関係者評価

実施日：令和6年11月13日

<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針・学校経営については、高い評価であり、否定的な回答も減少しているが、「わからない」を選択する保護者が増加している。折に触れて積極的な広報活動が必要である。 ・家庭との連携については、保護者には生徒に比べて学校からの情報は届いている結果となった。特に配信アプリの有効性は高い評価を得ている。今後も連携を密にしていきたい。 ・教職員、学習指導については、保護者は教員に対する期待値の高さが表れており、わかる授業、高いスキルが要求されている。生徒は、教員に対して概ね肯定的な回答が多く、日頃の指導が生徒に受け入れられてると考えられる。また、徴収金の連絡について肯定的な意見が増加した。保護者からの職員の対応について否定的な意見が多いことへの対策を講じたい。一方で外部との連携やテスト以外の学習評価に関する肯定的な評価が減少しているため、改善が必要である。 ・生徒指導、進路指導、健康管理、安全指導について、否定的意見が少なく、概ね良く理解が得られている。どの項目も肯定的な回答を選択する生徒が多く、大部分の生徒が本校の指導方針を理解し、肯定的である。「親身になって対応してくれる」という項目が大幅に増加し否定的な回答が減っている。安全指導についても、良い評価が増加している。 ・学校行事、部活動については、昨年度と比較し大幅に肯定的な意見が増加した。学校行事がコロナ以前に戻りつつあり、生徒・保護者とも好意的にとらえている評価結果となった。今後も生徒が活躍できる場の提供を積極的に増やしていきたい。
